

主催 早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「仏教文明と東アジアの地域文化研究」

後援 早稲田大学重点領域研究機構 後援

特別研究集会「長屋王その後－和銅・神亀経を追う」報告書

日時：2015 年 12 月 19 日（土）15:00～18:00

会場：早稲田大学文学学術院 39 号館第 7 会議室



【趣旨】

長屋王が和銅 5 年（712）と神亀 5 年（728）に発願して書写させた二種の大般若経各 600 巻の伝来調査を踏まえ、刑死に追いやられた長屋王がその後、歴史のなかでどのように記憶され、あるいは再生されていったのかを考察し、議論する。なお、この研究集会は、2015 年 3 月に終了した科研（A）「文明移動としての『仏教』からみた東アジアの差異と共生の研究」および重点領域研究機構「東アジア仏教文明研究所」の活動を発展させたものである。

【プログラム】

●15:00 ～ 15:20

開会：趣旨説明

司会 新川登亀男（早稲田大学）

●15:20 ～ 16:20

招聘講演

鈴木景二（富山大学）「平安時代以降の長屋王の記憶」

●16:30 ～ 17:00

調査報告

岩本健寿（早稲田大学大学院） 「長屋王発願経の調査と新資料紹介」

●17:00 ～ 18:00

総合討論

鈴木景二、岩本健寿、新川登亀男、小川宏和（早稲田大学大学院）

【報告要旨】

新川登亀男（早稲田大学）

趣旨説明と長屋王発願経の願文解説

鈴木景二（富山大学）

「平安時代以降の長屋王の記憶」

- ① 長屋王の事蹟
- ② 『日本霊異記』にみられる長屋王の評価
- ③ 長屋王の子孫（高階氏）の復権問題
- ④ 和銅経の近江伝来と薬師寺の関係、などの研究報告

岩本健寿（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程）

「長屋王発願経の調査と新資料紹介」

- ① 和銅経の近江伝来調査報告
- ② 神亀経の断簡とみられる個人蔵の新紹介

小川宏和（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程）

「京都国立博物館蔵・和銅経巻 260 添付文書についての覚書」

和銅経と以文会（江戸後期・明治）の関係についての調査研究報告

【総合討論内容】

参加者 30 名によって質疑応答がなされた。

- ① 長屋王の復権はあったのか
- ② 『日本霊異記』の長屋王伝承のとらえ方
- ③ 近江に集中する和銅経伝来の現状および奥書の内容について、活発な議論がみられた。

（文責：新川登亀男）